

令和 3 年度春採湖ヒブナ調査報告書

釧路市立博物館

目的と概要

春採湖（国指定天然記念物「ヒブナ生息地」）に生息するヒブナの保護施策を講じる上で重要な知見を蓄積するための調査（1. ヒブナ産卵親魚目視カウント調査 2. ヒブナ・フナ産卵調査）を実施した。

1. ヒブナ産卵親魚目視カウント調査

1-1. 目的

春採湖のヒブナの産卵生態および毎年の産卵親魚数の動向を把握するため、実施した。

1-2. 調査方法

湖岸一円（全域）における目視カウント調査

6月11日・12日に湖岸沿いをボートで春採湖を一周しながら、産卵のために湖岸沿いに寄ってきたヒブナ親魚の目視カウントをおこなった。

1-3. 結果と考察

6月11日・12日に湖岸全域の目視カウント調査を実施し、ヒブナ産卵親魚2尾を確認した（図1，表1）。平成26年から平成30年に実施したヒブナの目視と捕獲による調査により、目視確認調査の有効性が示されていること、また目視調査は捕獲調査に比べて産卵魚に与えるストレスがなく実施できるため、今後も目視確認に重点を置いた調査をおこなう。

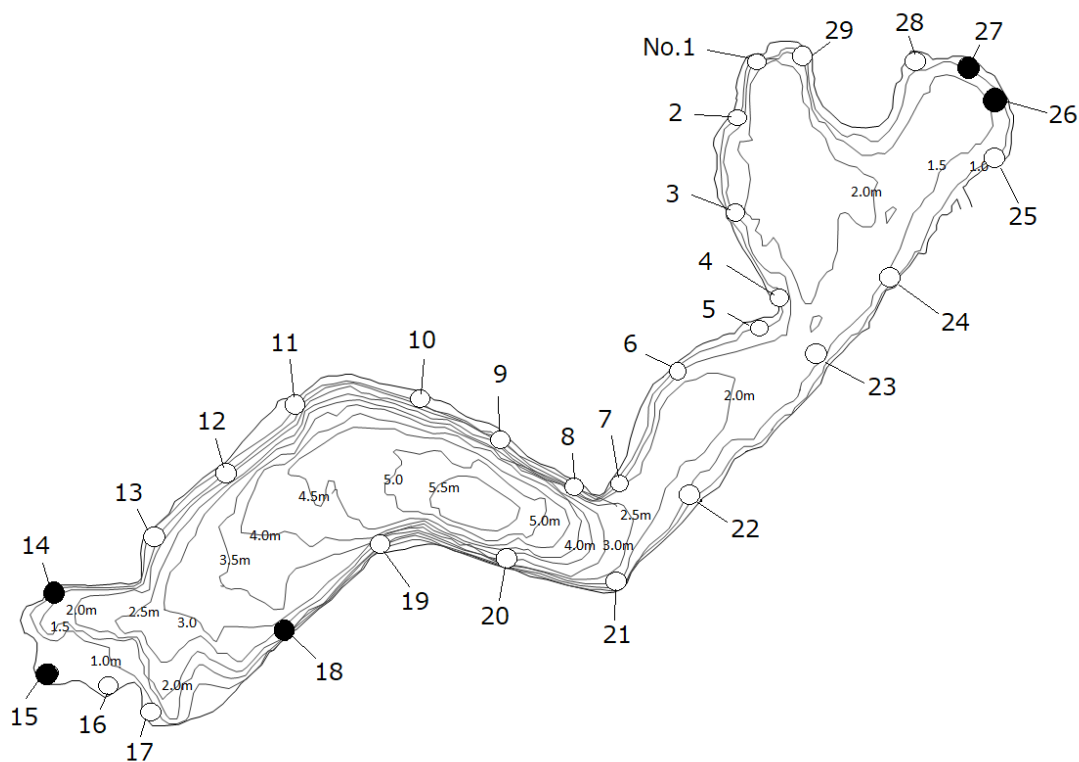


図 1. 2021 年 6 月 11 日及び 12 日に実施した春採湖におけるヒブナ・フナの産卵調査の地点。黒丸は産卵が確認された地点。ヒブナは No. 4 と 8 でそれぞれ 1 尾ずつ計 2 尾目視確認した。

表 1. 平成 26 年～令和 3 年のヒブナ産卵親魚確認尾数（捕獲尾数、目視確認尾数）

調査年	目視確認尾数 (湖岸一円における目視カウント調査結果)	のべ目視確認尾数 (定区、湖岸一円調査合計)	捕獲尾数 (定区、湖岸一円調査合計)
2014 (平成 26) 年	15	74	11
2015 (平成 27) 年	16	72	19
2016 (平成 28) 年	20	19	13
2017 (平成 29) 年	0	3	1
2018 (平成 30) 年	2	15	4
2019 (令和元) 年	3	実施せず	実施せず
2020 (令和 2) 年	1	実施せず	実施せず
2021 (令和 3) 年	2	実施せず	実施せず

※目視確認尾数は産卵期のピークの 1 日に湖岸一円において目視カウントした尾数
(2021 年調査については 2 日間に分けて実施した)

表 2. 1984 年～2010 年の春採湖ヒブナ生息調査（地曳網調査）結果

調査年	ヒブナ捕獲尾数	フナ捕獲尾数
1984（昭和 59）年	237	36,417
1985（昭和 60）年	17	1,299
1986（昭和 61）年	112	5,271
1987（昭和 62）年	43	1,811
1988（昭和 63）年	3	373
1989（平成元）年	4	511
1990（平成 2）年	3	263
1991（平成 3）年	3	778
1992（平成 4）年	3	152
1993（平成 5）年	3	1,098
1994（平成 6）年	32	5,431
1995（平成 7）年	6	1,718
1996（平成 8）年	4	1,102
1997（平成 9）年	12	2,129
1998（平成 10）年	4	1,743
1999（平成 11）年	13	4,973
2000（平成 12）年	8	3,092
2001（平成 13）年	4	9,487
2004（平成 16）年	0	921
2007（平成 19）年	0	35
2010（平成 22）年	0	6

2. 春採湖のヒブナ・フナ産卵調査の結果について

2-1. 目的

春採湖のヒブナの産卵生態を明らかにし、文化財の保護を図るとともに、水質浄化の効果指標として、ヒブナ・フナの産卵状況を調査した。

2-2. 期日

令和 3 年 6 月 11 日・12 日

2-3. 場所

湖岸一帯において調査場所地点を設定し、産卵状況を調査した（図 1）。

2-4. 結果と考察

- (1) 6月11日と12日の調査において、春採湖岸の北部の2地点（卵付着物：マツモとヤラメスゲ根等）と南部の3地点（卵付着物：マツモとエゾノミズタデ等）で産卵を確認した。春採湖岸で観測した水温は6月上旬から調査日（6月11・12日）にはヒブナ・フナの産卵に適した18℃から20℃になっており、産卵後の卵とヒブナ親魚も見られたことから産卵期間の範囲内と考えられる。
- (2) 近年減少していたリュウノヒゲモを5年連続して確認することができた（図1, 表3）。
- (3) ヒブナ・フナの重要な産卵場であるマツモについては、春採湖レポート2019の植物部門水生植物調査で指摘されているように、湖内分布面積が2006年には絶滅寸前まで落ち込んだものの、2008年以降徐々に増加し、2016年にはマツモが豊富に見られた1986年当時のおよそ半分の面積にまで回復している（図3）。

表 3. 2021 年 6 月 11 日及び 6 月 12 日に実施した春採湖におけるヒブナ・フナの産卵調査の結果。

6 月 11 日の午前 9 時 52 分の気温 18.2℃、6 月 12 日の午前 9 時 10 分の気温 19.2℃。

調 査 地 点	時刻	水温	水草等の種類	産 卵 状 況	水草の種類と生育状況
No. 1	10:18	22.2	枯ヨシの茎、マツモ断片	なし	ヨシ、マツモ断片
No. 2	11:12	22.4	ヤラメスゲの根、枯ヨシの茎	なし	ヨシ、ヤラメスゲ
No. 3	11:20	22.2	枯ヨシの茎	なし	ヨシ
No. 4	11:53	22.9	枯ヨシの茎	なし	ヨシ、フトイ
No. 5	11:58	22.7	枯ヨシの茎	なし	ヨシ、ヤラメスゲ、エゾノミズタデ
No. 6	12:06	22.9	枯ヨシの根	なし	ヨシ、ヤラメスゲ
No. 7	12:13	22.0	スイレンの葉	なし	スイレン、ヨシ
No. 8	12:21	22.0	枯ヨシの茎	なし	ヨシ、マツモ断片
No. 9	12:32	22.0	リュウノヒゲモ、マツモ	なし	リュウノヒゲモ群落、マツモ断片
No. 10	12:42	23.0	ヤラメスゲの茎	なし	ヤラメスゲ群落
No. 11	12:55	23.2	リュウノヒゲモ、マツモ	なし	リュウノヒゲモ断片、マツモ断片
No. 12	13:15	22.7	枯ヨシの茎	なし	ヨシ、ヤラメスゲ
No. 13	13:27	22.8	マツモ、ヤラメスゲの根	なし	マツモ断片 (多)、ヨシ、ヤラメスゲ
No. 14	13:37	22.7	マツモ	極僅か	マツモ群落
No. 15	13:45	21.9	マツモ (多)	多量	マツモ群落
No. 16	11:48	21.0	枯ヨシの茎	なし	マツモ断片
No. 17	11:40	20.6	枯ヨシの茎、ヤラメスゲの根	なし	ヨシ、ヤラメスゲ
No. 18	10:37	20.9	エゾノミズタデの茎	多量	エゾノミズタデ群落、ヨシ
No. 19	10:52	20.9	枯ヨシの茎	なし	ヨシ
No. 20	11:00	21.0	枯ヨシの茎	なし	ヨシ
No. 21	11:13	21.0	枯ヨシの茎	なし	ヨシ
No. 22	11:18	21.2	マツモ (多)	なし	マツモ (多)
No. 23	11:41	22.2	マツモ (多)	なし	マツモ群落
No. 24	11:35	22.2	枯ヨシの茎	なし	ヨシ
No. 25	10:08	21.3	枯ヨシの茎	なし	ヨシ
No. 26	9:54	21.3	マツモ、枯ヨシの茎	極僅か	マツモ群落
No. 27	9:38	21.0	ヤラメスゲの根、マツモ	多量	マツモ、ヤラメスゲ、ヨシ
No. 28	9:25	21.2	マツモ	なし	マツモ群落、ヨシ
No. 29	9:10	21.0	枯ヨシの茎	なし	マツモ断片、ヨシ、フトイ

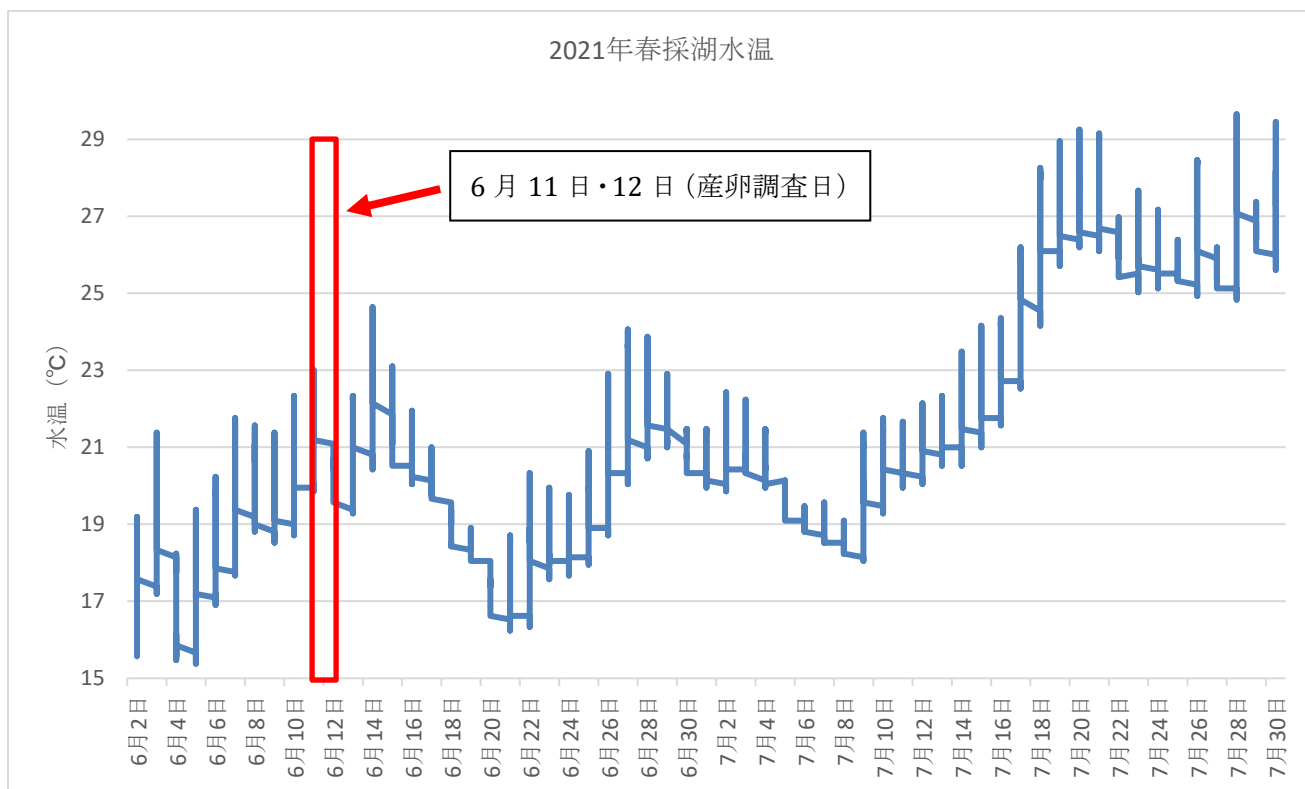
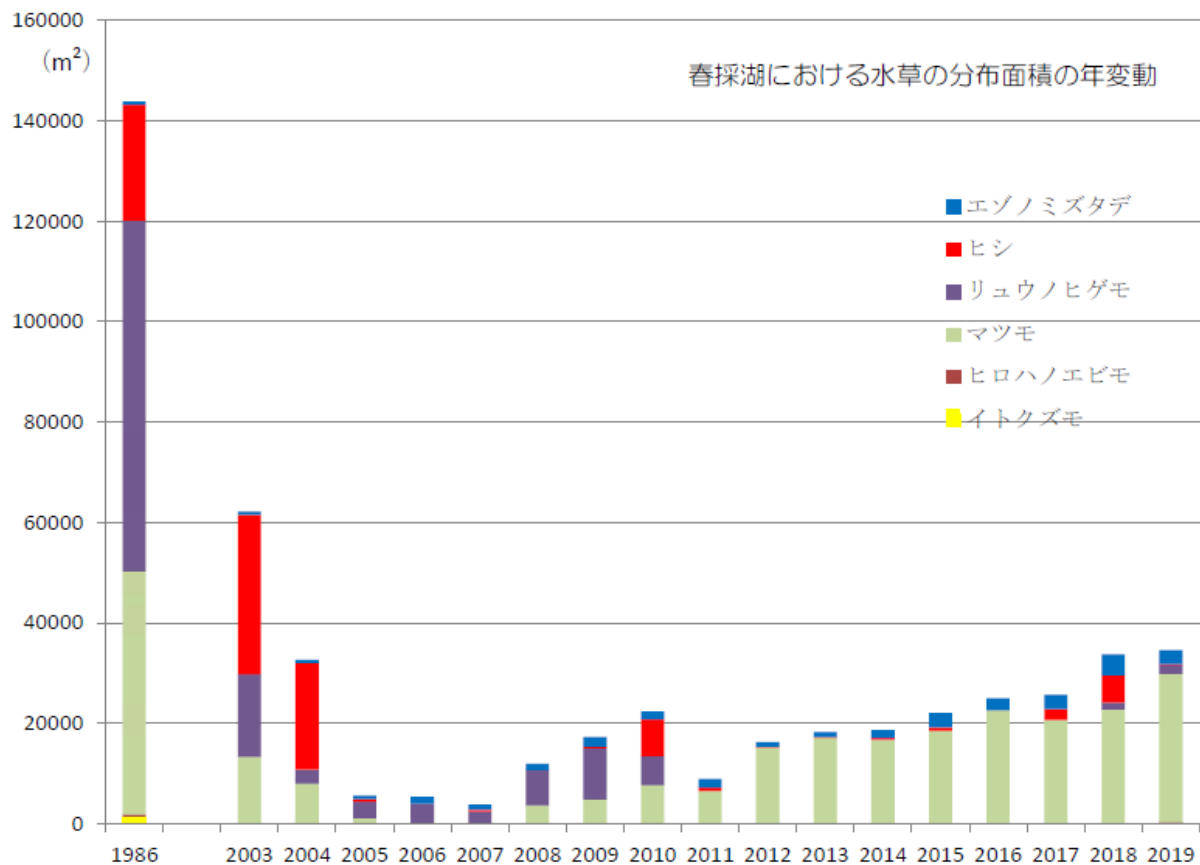


図2. 6月上旬から7月末までの春採湖岸・旧柏木小横（図2. のNo. 13 地点）における水温変化
（1時間間隔で自動水温記録データロガーにて計測）



写真1. マツモへの卵付着状況調査



調査日：2019年8月4日

確認された水草：エゾノミズタデ、ヒシ、リュウノヒゲモ、マツモ、ヒロハノエビモの5種

※「春採湖レポート2019」より <https://www.city.kushiro.lg.jp/common/000168313.pdf>

図3. 春採湖における水草の分布面積の年変動（縦軸の単位は m^2 ）

2003年～2004年に急激に落ち込んだが、2008年以降はマツモ群落が増加している。